

日本大学松戸歯学部  
内科学(循環器) 講座教授



味わい深い唯一無二の鯖文化干し

「一笑」そして千枝美さんの「チエ」。二人の長年の夢がない、この6月2日に開店したばかり。

**販売店・編集部 おすすめの店**  
健康的なランチプレート  
**Cafe ichie**  
(カフェイチエ)  
成田市の宗吾霊堂門前に店を構える「カフェイチエ」。笑顔が魅力の平原チエ。店名の由来は「一笑」

「裂き織り」という織物をご存知だろうか。縦に張った糸に、横糸には布を細く裂いてひも状にしたものを使って新たな布を織る技法だ。「布を破いて織れば裂き織りです」と、笑って話すのは裂き織り作家の入山幸子さん(72)。

「布供養」の想いを込めて

裂き織り作家 入山幸子さん



布供養のきっかけとなった「観音様」と入山さん

「元々手仕事が好きだった。47歳の時、東京ドームの展示会で青森県十和田市の南部裂織を体験してその面白さに目覚めた。その後、裂織の教室に通い基礎的な技術を習得。着物の胴裏、様々な古布などを庭で育てた藍で藍染め、草木染で独創的な作品を作り上げた。着実にキャリアを積み、2001年に千葉県展に出展した。来店客と声をかわす接客を心掛けています。平原さん。

初応募で入選、2012年に千葉県美術協会会員となり、以降毎年無鑑査で出展。自ら教室を持ち、裂き織り技術の拡大に貢献していたが、67歳の時に脳梗塞に襲われた。発見が遅れたら命に係わる状況だった。幸い、幸い発見が早く大事には至らなかった。

「裂き織り」の作業をする入山さん

「自然はいろいろな生き物が入り乱れて調和している。小さいものが好きでその密度を表現したい。虫の視点になり、観察したものを表現した。」

「命まじわる絵」を通じて、細いペンを使用する理由を話してくれた。また観察の時の大切さについて「この生物のことがおもしろい、ここを描きたい」というものが無いと、モデルとなる生き物への眼差しは熱い。

「命まじわる絵」を通じて、観察者へのメッセージを「自然に目を向けて、自然と向き合っている時間を多くしてほしい。人間ファーストになっていないので、他の生き物にも目を向けられ、今までの目と発見を得ることが出来ます」と、語ってくれた。

「命まじわる絵」

ふなばしアンデルセン公園 子ども美術館

8月15日まで

(一面よりの続き)

「ふなばしアンデルセン公園子ども美術館」。新京城線「三咲駅」からバス「セコムデック病院」行きで約15分。「アンデルセン公園」下車徒歩1分。平日9時30分～16時。土日祝日9時30分～17時。7月20日～8月15日は9時～17時。月曜休館(ただし7月24日、31日と8月7日、14日は開館)。

「ふなばしアンデルセン公園子ども美術館」の展示内容について「この生物のことがおもしろい、ここを描きたい」というものが無いと、モデルとなる生き物への眼差しは熱い。

「命まじわる絵」を通じて、観察者へのメッセージを「自然に目を向けて、自然と向き合っている時間を多くしてほしい。人間ファーストになっていないので、他の生き物にも目を向けられ、今までの目と発見を得ることが出来ます」と、語ってくれた。

「ふなばしアンデルセン公園子ども美術館」の展示内容について「この生物のことがおもしろい、ここを描きたい」というものが無いと、モデルとなる生き物への眼差しは熱い。

「命まじわる絵」を通じて、観察者へのメッセージを「自然に目を向けて、自然と向き合っている時間を多くしてほしい。人間ファーストになっていないので、他の生き物にも目を向けられ、今までの目と発見を得ることが出来ます」と、語ってくれた。

「命まじわる絵」を通じて、観察者へのメッセージを「自然に目を向けて、自然と向き合っている時間を多くしてほしい。人間ファーストになっていないので、他の生き物にも目を向けられ、今までの目と発見を得ることが出来ます」と、語ってくれた。

「ふなばしアンデルセン公園子ども美術館」の展示内容について「この生物のことがおもしろい、ここを描きたい」というものが無いと、モデルとなる生き物への眼差しは熱い。

「命まじわる絵」を通じて、観察者へのメッセージを「自然に目を向けて、自然と向き合っている時間を多くしてほしい。人間ファーストになっていないので、他の生き物にも目を向けられ、今までの目と発見を得ることが出来ます」と、語ってくれた。

「ふなばしアンデルセン公園子ども美術館」の展示内容について「この生物のことがおもしろい、ここを描きたい」というものが無いと、モデルとなる生き物への眼差しは熱い。

「命まじわる絵」を通じて、観察者へのメッセージを「自然に目を向けて、自然と向き合っている時間を多くしてほしい。人間ファーストになっていないので、他の生き物にも目を向けられ、今までの目と発見を得ることが出来ます」と、語ってくれた。

「命まじわる絵」を通じて、観察者へのメッセージを「自然に目を向けて、自然と向き合っている時間を多くしてほしい。人間ファーストになっていないので、他の生き物にも目を向けられ、今までの目と発見を得ることが出来ます」と、語ってくれた。

「ふなばしアンデルセン公園子ども美術館」の展示内容について「この生物のことがおもしろい、ここを描きたい」というものが無いと、モデルとなる生き物への眼差しは熱い。

「ふなばしアンデルセン公園子ども美術館」の展示内容について「この生物のことがおもしろい、ここを描きたい」というものが無いと、モデルとなる生き物への眼差しは熱い。

「命まじわる絵」を通じて、観察者へのメッセージを「自然に目を向けて、自然と向き合っている時間を多くしてほしい。人間ファーストになっていないので、他の生き物にも目を向けられ、今までの目と発見を得ることが出来ます」と、語ってくれた。

「命まじわる絵」を通じて、観察者へのメッセージを「自然に目を向けて、自然と向き合っている時間を多くしてほしい。人間ファーストになっていないので、他の生き物にも目を向けられ、今までの目と発見を得ることが出来ます」と、語ってくれた。

「ふなばしアンデルセン公園子ども美術館」の展示内容について「この生物のことがおもしろい、ここを描きたい」というものが無いと、モデルとなる生き物への眼差しは熱い。

「ふなばしアンデルセン公園子ども美術館」の展示内容について「この生物のことがおもしろい、ここを描きたい」というものが無いと、モデルとなる生き物への眼差しは熱い。

「命まじわる絵」を通じて、観察者へのメッセージを「自然に目を向けて、自然と向き合っている時間を多くしてほしい。人間ファーストになっていないので、他の生き物にも目を向けられ、今までの目と発見を得ることが出来ます」と、語ってくれた。

「命まじわる絵」を通じて、観察者へのメッセージを「自然に目を向けて、自然と向き合っている時間を多くしてほしい。人間ファーストになっていないので、他の生き物にも目を向けられ、今までの目と発見を得ることが出来ます」と、語ってくれた。

「ふなばしアンデルセン公園子ども美術館」の展示内容について「この生物のことがおもしろい、ここを描きたい」というものが無いと、モデルとなる生き物への眼差しは熱い。

「ふなばしアンデルセン公園子ども美術館」の展示内容について「この生物のことがおもしろい、ここを描きたい」というものが無いと、モデルとなる生き物への眼差しは熱い。

「命まじわる絵」を通じて、観察者へのメッセージを「自然に目を向けて、自然と向き合っている時間を多くしてほしい。人間ファーストになっていないので、他の生き物にも目を向けられ、今までの目と発見を得ることが出来ます」と、語ってくれた。

「命まじわる絵」を通じて、観察者へのメッセージを「自然に目を向けて、自然と向き合っている時間を多くしてほしい。人間ファーストになっていないので、他の生き物にも目を向けられ、今までの目と発見を得ることが出来ます」と、語ってくれた。

「ふなばしアンデルセン公園子ども美術館」の展示内容について「この生物のことがおもしろい、ここを描きたい」というものが無いと、モデルとなる生き物への眼差しは熱い。

「ふなばしアンデルセン公園子ども美術館」の展示内容について「この生物のことがおもしろい、ここを描きたい」というものが無いと、モデルとなる生き物への眼差しは熱い。

「命まじわる絵」を通じて、観察者へのメッセージを「自然に目を向けて、自然と向き合っている時間を多くしてほしい。人間ファーストになっていないので、他の生き物にも目を向けられ、今までの目と発見を得ることが出来ます」と、語ってくれた。

「命まじわる絵」を通じて、観察者へのメッセージを「自然に目を向けて、自然と向き合っている時間を多くしてほしい。人間ファーストになっていないので、他の生き物にも目を向けられ、今までの目と発見を得ることが出来ます」と、語ってくれた。

「ふなばしアンデルセン公園子ども美術館」の展示内容について「この生物のことがおもしろい、ここを描きたい」というものが無いと、モデルとなる生き物への眼差しは熱い。

「ふなばしアンデルセン公園子ども美術館」の展示内容について「この生物のことがおもしろい、ここを描きたい」というものが無いと、モデルとなる生き物への眼差しは熱い。

「命まじわる絵」を通じて、観察者へのメッセージを「自然に目を向けて、自然と向き合っている時間を多くしてほしい。人間ファーストになっていないので、他の生き物にも目を向けられ、今までの目と発見を得ることが出来ます」と、語ってくれた。

「命まじわる絵」を通じて、観察者へのメッセージを「自然に目を向けて、自然と向き合っている時間を多くしてほしい。人間ファーストになっていないので、他の生き物にも目を向けられ、今までの目と発見を得ることが出来ます」と、語ってくれた。

「ふなばしアンデルセン公園子ども美術館」の展示内容について「この生物のことがおもしろい、ここを描きたい」というものが無いと、モデルとなる生き物への眼差しは熱い。

「ふなばしアンデルセン公園子ども美術館」の展示内容について「この生物のことがおもしろい、ここを描きたい」というものが無いと、モデルとなる生き物への眼差しは熱い。

「命まじわる絵」を通じて、観察者へのメッセージを「自然に目を向けて、自然と向き合っている時間を多くしてほしい。人間ファーストになっていないので、他の生き物にも目を向けられ、今までの目と発見を得ることが出来ます」と、語ってくれた。

「命まじわる絵」を通じて、観察者へのメッセージを「自然に目を向けて、自然と向き合っている時間を多くしてほしい。人間ファーストになっていないので、他の生き物にも目を向けられ、今までの目と発見を得ることが出来ます」と、語ってくれた。

「ふなばしアンデルセン公園子ども美術館」の展示内容について「この生物のことがおもしろい、ここを描きたい」というものが無いと、モデルとなる生き物への眼差しは熱い。

「ふなばしアンデルセン公園子ども美術館」の展示内容について「この生物のことがおもしろい、ここを描きたい」というものが無いと、モデルとなる生き物への眼差しは熱い。

「命まじわる絵」を通じて、観察者へのメッセージを「自然に目を向けて、自然と向き合っている時間を多くしてほしい。人間ファーストになっていないので、他の生き物にも目を向けられ、今までの目と発見を得ることが出来ます」と、語ってくれた。

「命まじわる絵」を通じて、観察者へのメッセージを「自然に目を向けて、自然と向き合っている時間を多くしてほしい。人間ファーストになっていないので、他の生き物にも目を向けられ、今までの目と発見を得ることが出来ます」と、語ってくれた。

「ふなばしアンデルセン公園子ども美術館」の展示内容について「この生物のことがおもしろい、ここを描きたい」というものが無いと、モデルとなる生き物への眼差しは熱い。

「ふなばしアンデルセン公園子ども美術館」の展示内容について「この生物のことがおもしろい、ここを描きたい」というものが無いと、モデルとなる生き物への眼差しは熱い。

「命まじわる絵」を通じて、観察者へのメッセージを「自然に目を向けて、自然と向き合っている時間を多くしてほしい。人間ファーストになっていないので、他の生き物にも目を向けられ、今までの目と発見を得ることが出来ます」と、語ってくれた。

「命まじわる絵」を通じて、観察者へのメッセージを「自然に目を向けて、自然と向き合っている時間を多くしてほしい。人間ファーストになっていないので、他の生き物にも目を向けられ、今までの目と発見を得ることが出来ます」と、語ってくれた。

「ふなばしアンデルセン公園子ども美術館」の展示内容について「この生物のことがおもしろい、ここを描きたい」というものが無いと、モデルとなる生き物への眼差しは熱い。

「ふなばしアンデルセン公園子ども美術館」の展示内容について「この生物のことがおもしろい、ここを描きたい」というものが無いと、モデルとなる生き物への眼差しは熱い。

「命まじわる絵」を通じて、観察者へのメッセージを「自然に目を向けて、自然と向き合っている時間を多くしてほしい。人間ファーストになっていないので、他の生き物にも目を向けられ、今までの目と発見を得ることが出来ます」と、語ってくれた。

「命まじわる絵」を通じて、観察者へのメッセージを「自然に目を向けて、自然と向き合っている時間を多くしてほしい。人間ファーストになっていないので、他の生き物にも目を向けられ、今までの目と発見を得ることが出来ます」と、語ってくれた。

「ふなばしアンデルセン公園子ども美術館」の展示内容について「この生物のことがおもしろい、ここを描きたい」というものが無いと、モデルとなる生き物への眼差しは熱い。

「ふなばしアンデルセン公園子ども美術館」の展示内容について「この生物のことがおもしろい、ここを描きたい」というものが無いと、モデルとなる生き物への眼差しは熱い。

「命まじわる絵」を通じて、観察者へのメッセージを「自然に目を向けて、自然と向き合っている時間を多くしてほしい。人間ファーストになっていないので、他の生き物にも目を向けられ、今までの目と発見を得ることが出来ます」と、語ってくれた。

「命まじわる絵」を通じて、観察者へのメッセージを「自然に目を向けて、自然と向き合っている時間を多くしてほしい。人間ファーストになっていないので、他の生き物にも目を向けられ、今までの目と発見を得ることが出来ます」と、語ってくれた。

「ふなばしアンデルセン公園子ども美術館」の展示内容について「この生物のことがおもしろい、ここを描きたい」というものが無いと、モデルとなる生き物への眼差しは熱い。